

# 2023年4月・GWのおでかけ指数

～地方圏で高いが、大都市部の回復も目立つ  
GWは前年を下回る

2023年5月17日

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

九経調 DATASALAD (<https://datasalad.jp/>) では、景気、産業、社会に関する政府統計に加え、人流や求人等のビッグデータ・オルタナティブデータを、地域の景気や産業の動向を分析する指標として加工、可視化している。

本稿では、当会が提供している人流モニタリングプラットフォーム「おでかけウォッチャー」(<https://odekake-watcher.info/>) の掲載データ<sup>1</sup>の一部を集約した「おでかけ指数<sup>2</sup>」により、2023年4月・ゴールデンウィーク（GW）における全国の人流動向を分析する。なお、DATASALAD 上では、来訪地側（着地側）と発地側の2種類の「おでかけ指数」を公表しているが、本稿では主に来訪地側を取り上げる。



## 1. 4月の全国のおでかけ指数：回復基調続く

2023年4月における全国のおでかけ指数は57.6となった（図1）。前年比+3.2%と17カ月連続で前年を上回った。2019年同月比では▲46.1%と、マイナス幅は3カ月連続で縮小した（図2）。新型コロナウイルス感染状況が落ち着いたことから、緩やかな回復基調が継続している。

図1 おでかけ指数の月次推移（全国）

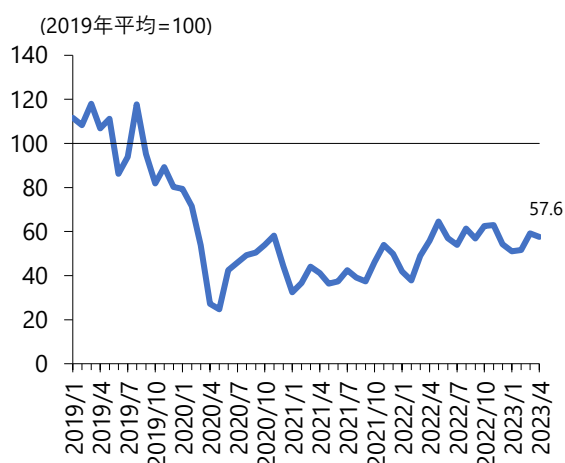
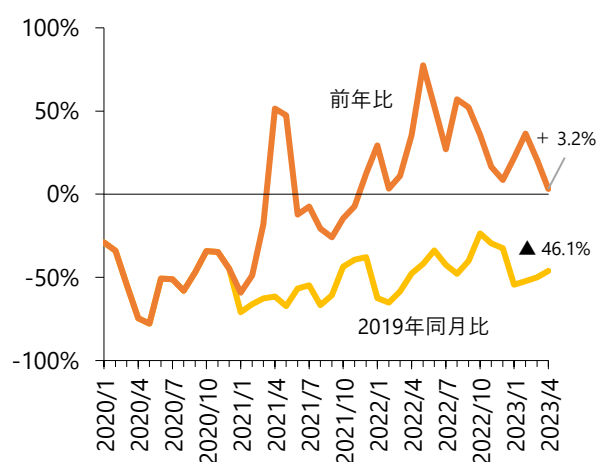


図2 おでかけ指数前年比・2019年同月比（全国）



注) 2023年5月7日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

<sup>1</sup> 「おでかけウォッチャー」で提供している位置情報ビッグデータは、株式会社ブログウォッチャーより提供を受けたものであり、承諾を得たユーザー（月間2,500万MAU）のスマートフォンから取得したものである。インバウンドは含まない。

<sup>2</sup> おでかけ指数は、新型コロナウイルス感染拡大前である2019年の日平均を100とした指数である。

## 2. 4月の地域ブロック別のおでかけ指数：東北・沖縄・四国で高い

2023年4月のおでかけ指数を12の地域ブロック別にみると、指数は東北(70.1)、沖縄(70.0)、四国(67.0)、などで高い傾向にある(表1、表2)。

前年比は、10地域でプラスとなった。前年の反動もあって、沖縄(+29.2%)のプラス幅が最も大きいほか、南関東(+7.5%)、東北(+4.0%)など北東日本の地方圏でプラス幅が大きい。

2019年同月比は、沖縄(▲32.0%)、北海道(▲34.9%)、東北(▲35.7%)など地方圏で高い(マイナス幅が小さい)。一方、南関東(▲53.3%)や近畿(▲47.8%)、東海(▲47.0%)など大都市圏では低い(マイナス幅が大きい)ものの、マイナス幅は前月より縮小している。

表1 地域ブロック別おでかけ指数

地域	2023年 4月	前年比	2019年 同月比
全国	57.6	+ 3.2%	▲ 46.1%
北海道	61.6	▲ 5.2%	▲ 34.9%
東北	70.1	+ 4.0%	▲ 35.7%
北関東	65.0	+ 2.0%	▲ 40.4%
南関東	50.3	+ 7.5%	▲ 53.3%
甲信越	63.7	▲ 2.5%	▲ 39.7%
東海	56.7	+ 1.4%	▲ 47.0%
北陸	63.5	+ 2.1%	▲ 39.6%
近畿	56.7	+ 0.4%	▲ 47.8%
中国	65.9	+ 2.5%	▲ 38.5%
四国	67.0	+ 2.9%	▲ 37.3%
九州	65.4	+ 2.0%	▲ 36.4%
沖縄	70.0	+ 29.2%	▲ 32.0%

注) 2023年5月7日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表2 地域ブロック別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

< 指数順 >

順位	地域	2023年 4月	前年比	2019年 同月比
1	東北	70.1	+ 4.0%	▲ 35.7%
2	沖縄	70.0	+ 29.2%	▲ 32.0%
3	四国	67.0	+ 2.9%	▲ 37.3%
4	中国	65.9	+ 2.5%	▲ 38.5%
5	九州	65.4	+ 2.0%	▲ 36.4%
6	北関東	65.0	+ 2.0%	▲ 40.4%
7	甲信越	63.7	▲ 2.5%	▲ 39.7%
8	北陸	63.5	+ 2.1%	▲ 39.6%
9	北海道	61.6	▲ 5.2%	▲ 34.9%
10	東海	56.7	+ 1.4%	▲ 47.0%
	近畿	56.7	+ 0.4%	▲ 47.8%
12	南関東	50.3	+ 7.5%	▲ 53.3%

< 2019年同月比順 >

順位	地域	2023年 4月	前年比	2019年 同月比
1	沖縄	70.0	+ 29.2%	▲ 32.0%
2	北海道	61.6	▲ 5.2%	▲ 34.9%
3	東北	70.1	+ 4.0%	▲ 35.7%
4	九州	65.4	+ 2.0%	▲ 36.4%
5	四国	67.0	+ 2.9%	▲ 37.3%
6	中国	65.9	+ 2.5%	▲ 38.5%
7	北陸	63.5	+ 2.1%	▲ 39.6%
8	甲信越	63.7	▲ 2.5%	▲ 39.7%
9	北関東	65.0	+ 2.0%	▲ 40.4%
10	東海	56.7	+ 1.4%	▲ 47.0%
11	近畿	56.7	+ 0.4%	▲ 47.8%
12	南関東	50.3	+ 7.5%	▲ 53.3%

注) 2023年5月7日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

九州の2023年4月のおでかけ指数は65.4となり、前年比は+2.0%と前月より低下したが、2019年同月比は▲36.4%と前月より改善した（図3、図4）。

沖縄の2023年4月のおでかけ指数は70.0となり、前年比は+29.2%、2019年同月比は▲32.0%と、いずれも前月より低下した（図5、図6）。

図3 おでかけ指数の月次推移（九州）

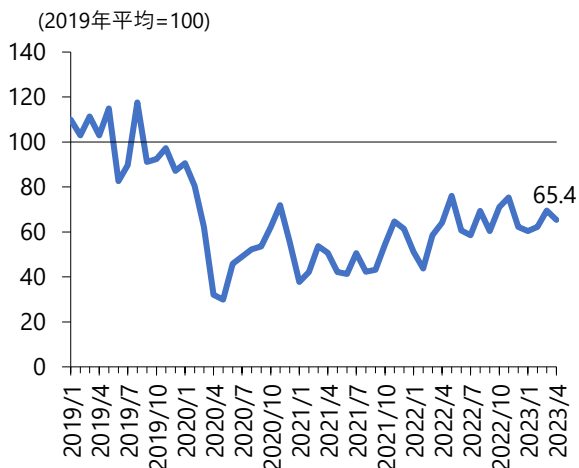
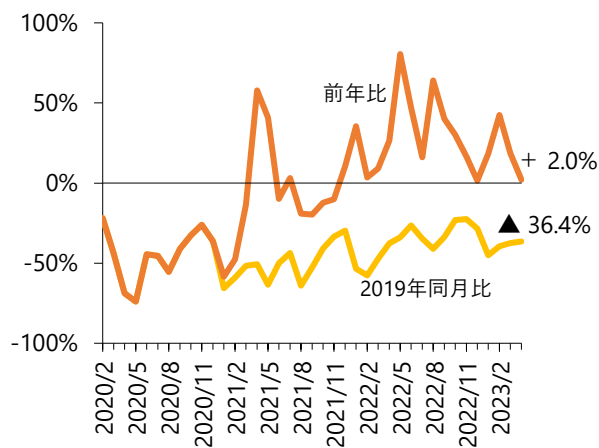


図4 おでかけ指数前年比・2019年同月比（九州）



注) 2023年5月7日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

図5 おでかけ指数の月次推移（沖縄）

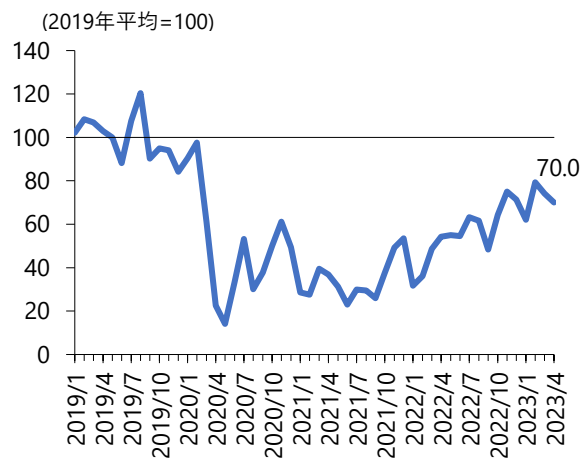
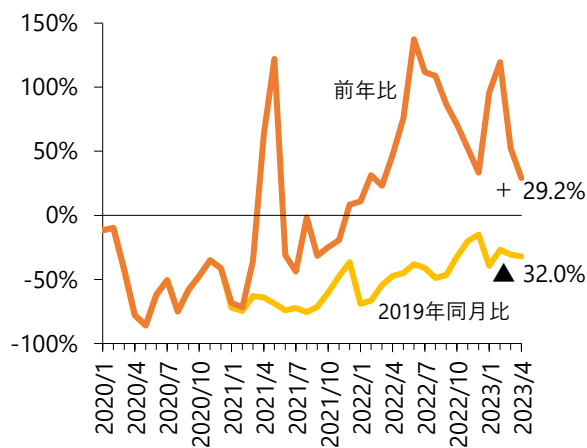


図6 おでかけ指数前年比・2019年同月比（沖縄）



注) 2023年5月7日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

### 3. 4月の都道府県別のおでかけ指数：大都市で前年比が上昇

2023年4月のおでかけ指数を47都道府県別にみると、指数は概ね地方圏で高く大都市部で低い傾向が続いており、上位3都道府県は青森県(79.0)、福島県(73.9)、宮崎県(73.8)、下位3都道府県は東京都(48.9)、千葉県(51.4)、大阪府(52.7)となっている(表3、表4)。

前年比は29都府県でプラスとなった。上位は前月に引き続き、沖縄県(+29.2%)、宮崎県(+10.5%)、鹿児島県(+9.7%)など地方圏が上位にきている。加えて今月は、東京都(+9.2%)や大阪府(+7.3%)など大都市圏での上昇も目立っている。

2019年同月比は青森県(▲29.2%)、宮崎県(▲29.6%)、岩手県(▲30.8%)、など地方圏でマイナスが小さく、コロナ禍前水準への回復が比較的進んでいる。

表3 都道府県別おでかけ指数

地域	2023年4月	前年比	2019年同月比	地域	2023年4月	前年比	2019年同月比
全国	57.6	+ 3.2%	▲ 46.1%	三重県	53.9	▲ 2.9%	▲ 48.8%
北海道	61.6	▲ 5.2%	▲ 34.9%	滋賀県	61.8	▲ 0.6%	▲ 45.4%
青森県	79.0	+ 8.8%	▲ 29.2%	京都府	61.6	▲ 4.3%	▲ 44.5%
岩手県	71.1	+ 3.0%	▲ 30.8%	大阪府	52.7	+ 7.3%	▲ 50.3%
宮城県	62.9	+ 6.3%	▲ 41.4%	兵庫県	54.7	▲ 2.8%	▲ 49.0%
秋田県	72.9	+ 3.0%	▲ 33.4%	奈良県	72.8	▲ 7.4%	▲ 41.3%
山形県	65.5	+ 0.2%	▲ 37.2%	和歌山県	59.9	▲ 7.6%	▲ 44.7%
福島県	73.9	+ 1.0%	▲ 36.7%	鳥取県	64.2	+ 3.2%	▲ 39.3%
茨城県	66.9	+ 2.0%	▲ 38.8%	島根県	68.8	+ 2.7%	▲ 36.2%
栃木県	67.8	+ 7.6%	▲ 39.9%	岡山県	60.4	+ 1.2%	▲ 42.9%
群馬県	59.8	▲ 3.2%	▲ 42.8%	広島県	69.0	+ 6.8%	▲ 36.1%
埼玉県	53.6	+ 2.1%	▲ 52.7%	山口県	67.5	▲ 5.6%	▲ 37.6%
千葉県	51.4	+ 1.6%	▲ 52.7%	徳島県	67.5	+ 5.0%	▲ 39.1%
東京都	48.9	+ 9.2%	▲ 54.2%	香川県	58.6	▲ 3.5%	▲ 45.4%
神奈川県	54.0	+ 7.4%	▲ 50.0%	愛媛県	69.8	+ 8.4%	▲ 33.8%
新潟県	66.5	▲ 0.6%	▲ 37.6%	高知県	72.4	+ 0.1%	▲ 31.2%
富山県	72.0	+ 3.4%	▲ 36.6%	福岡県	61.0	+ 1.2%	▲ 39.9%
石川県	59.6	+ 6.6%	▲ 41.3%	佐賀県	63.0	+ 1.6%	▲ 38.6%
福井県	62.2	▲ 6.2%	▲ 39.9%	長崎県	67.8	0.0%	▲ 35.1%
山梨県	61.0	▲ 1.3%	▲ 44.4%	熊本県	72.5	▲ 0.5%	▲ 31.0%
長野県	62.6	▲ 4.9%	▲ 38.9%	大分県	68.2	▲ 1.7%	▲ 35.0%
岐阜県	63.1	▲ 3.7%	▲ 41.1%	宮崎県	73.8	+ 10.5%	▲ 29.6%
静岡県	56.2	+ 0.9%	▲ 46.8%	鹿児島県	69.2	+ 9.7%	▲ 32.7%
愛知県	56.4	+ 4.8%	▲ 47.9%	沖縄県	70.0	+ 29.2%	▲ 32.0%

注) 2023年5月7日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

表4 都道府県別おでかけ指数 指数・2019年同月比によるソート

&lt; 指数順 &gt;

順位	地域	2023年4月	前年比	2019年同月比
1	青森県	79.0	+ 8.8%	▲ 29.2%
2	福島県	73.9	+ 1.0%	▲ 36.7%
3	宮崎県	73.8	+ 10.5%	▲ 29.6%
4	秋田県	72.9	+ 3.0%	▲ 33.4%
5	奈良県	72.8	▲ 7.4%	▲ 41.3%
6	熊本県	72.5	▲ 0.5%	▲ 31.0%
7	高知県	72.4	+ 0.1%	▲ 31.2%
8	富山県	72.0	+ 3.4%	▲ 36.6%
9	岩手県	71.1	+ 3.0%	▲ 30.8%
10	沖縄県	70.0	+ 29.2%	▲ 32.0%
11	愛媛県	69.8	+ 8.4%	▲ 33.8%
12	鹿児島県	69.2	+ 9.7%	▲ 32.7%
13	広島県	69.0	+ 6.8%	▲ 36.1%
14	島根県	68.8	+ 2.7%	▲ 36.2%
15	大分県	68.2	▲ 1.7%	▲ 35.0%
16	栃木県	67.8	+ 7.6%	▲ 39.9%
17	長崎県	67.8	0.0%	▲ 35.1%
18	山口県	67.5	▲ 5.6%	▲ 37.6%
19	徳島県	67.5	+ 5.0%	▲ 39.1%
20	茨城県	66.9	+ 2.0%	▲ 38.8%
21	新潟県	66.5	▲ 0.6%	▲ 37.6%
22	山形県	65.5	+ 0.2%	▲ 37.2%
23	鳥取県	64.2	+ 3.2%	▲ 39.3%
24	岐阜県	63.1	▲ 3.7%	▲ 41.1%
25	佐賀県	63.0	+ 1.6%	▲ 38.6%
26	宮城県	62.9	+ 6.3%	▲ 41.4%
27	長野県	62.6	▲ 4.9%	▲ 38.9%
28	福井県	62.2	▲ 6.2%	▲ 39.9%
29	滋賀県	61.8	▲ 0.6%	▲ 45.4%
30	北海道	61.6	▲ 5.2%	▲ 34.9%
31	京都府	61.6	▲ 4.3%	▲ 44.5%
32	山梨県	61.0	▲ 1.3%	▲ 44.4%
33	福岡県	61.0	+ 1.2%	▲ 39.9%
34	岡山県	60.4	+ 1.2%	▲ 42.9%
35	和歌山県	59.9	▲ 7.6%	▲ 44.7%
36	群馬県	59.8	▲ 3.2%	▲ 42.8%
37	石川県	59.6	+ 6.6%	▲ 41.3%
38	香川県	58.6	▲ 3.5%	▲ 45.4%
39	愛知県	56.4	+ 4.8%	▲ 47.9%
40	静岡県	56.2	+ 0.9%	▲ 46.8%
41	兵庫県	54.7	▲ 2.8%	▲ 49.0%
42	神奈川県	54.0	+ 7.4%	▲ 50.0%
43	三重県	53.9	▲ 2.9%	▲ 48.8%
44	埼玉県	53.6	+ 2.1%	▲ 52.7%
45	大阪府	52.7	+ 7.3%	▲ 50.3%
46	千葉県	51.4	+ 1.6%	▲ 52.7%
47	東京都	48.9	+ 9.2%	▲ 54.2%

&lt; 2019年同月比順 &gt;

順位	地域	2023年4月	前年比	2019年同月比
1	青森県	79.0	+ 8.8%	▲ 29.2%
2	宮崎県	73.8	+ 10.5%	▲ 29.6%
3	岩手県	71.1	+ 3.0%	▲ 30.8%
4	熊本県	72.5	▲ 0.5%	▲ 31.0%
5	高知県	72.4	+ 0.1%	▲ 31.2%
6	沖縄県	70.0	+ 29.2%	▲ 32.0%
7	鹿児島県	69.2	+ 9.7%	▲ 32.7%
8	秋田県	72.9	+ 3.0%	▲ 33.4%
9	愛媛県	69.8	+ 8.4%	▲ 33.8%
10	北海道	61.6	▲ 5.2%	▲ 34.9%
11	大分県	68.2	▲ 1.7%	▲ 35.0%
12	長崎県	67.8	0.0%	▲ 35.1%
13	広島県	69.0	+ 6.8%	▲ 36.1%
14	島根県	68.8	+ 2.7%	▲ 36.2%
15	富山県	72.0	+ 3.4%	▲ 36.6%
16	福島県	73.9	+ 1.0%	▲ 36.7%
17	山形県	65.5	+ 0.2%	▲ 37.2%
18	山口県	67.5	▲ 5.6%	▲ 37.6%
19	新潟県	66.5	▲ 0.6%	▲ 37.6%
20	佐賀県	63.0	+ 1.6%	▲ 38.6%
21	茨城県	66.9	+ 2.0%	▲ 38.8%
22	長野県	62.6	▲ 4.9%	▲ 38.9%
23	徳島県	67.5	+ 5.0%	▲ 39.1%
24	鳥取県	64.2	+ 3.2%	▲ 39.3%
25	福岡県	61.0	+ 1.2%	▲ 39.9%
26	福井県	62.2	▲ 6.2%	▲ 39.9%
27	栃木県	67.8	+ 7.6%	▲ 39.9%
28	岐阜県	63.1	▲ 3.7%	▲ 41.1%
29	石川県	59.6	+ 6.6%	▲ 41.3%
30	奈良県	72.8	▲ 7.4%	▲ 41.3%
31	宮城県	62.9	+ 6.3%	▲ 41.4%
32	群馬県	59.8	▲ 3.2%	▲ 42.8%
33	岡山県	60.4	+ 1.2%	▲ 42.9%
34	山梨県	61.0	▲ 1.3%	▲ 44.4%
35	京都府	61.6	▲ 4.3%	▲ 44.5%
36	和歌山県	59.9	▲ 7.6%	▲ 44.7%
37	滋賀県	61.8	▲ 0.6%	▲ 45.4%
38	香川県	58.6	▲ 3.5%	▲ 45.4%
39	静岡県	56.2	+ 0.9%	▲ 46.8%
40	愛知県	56.4	+ 4.8%	▲ 47.9%
41	三重県	53.9	▲ 2.9%	▲ 48.8%
42	兵庫県	54.7	▲ 2.8%	▲ 49.0%
43	神奈川県	54.0	+ 7.4%	▲ 50.0%
44	大阪府	52.7	+ 7.3%	▲ 50.3%
45	千葉県	51.4	+ 1.6%	▲ 52.7%
46	埼玉県	53.6	+ 2.1%	▲ 52.7%
47	東京都	48.9	+ 9.2%	▲ 54.2%

注) 2023年5月7日までのデータによる推計値

資料) 九経調 DATASALAD

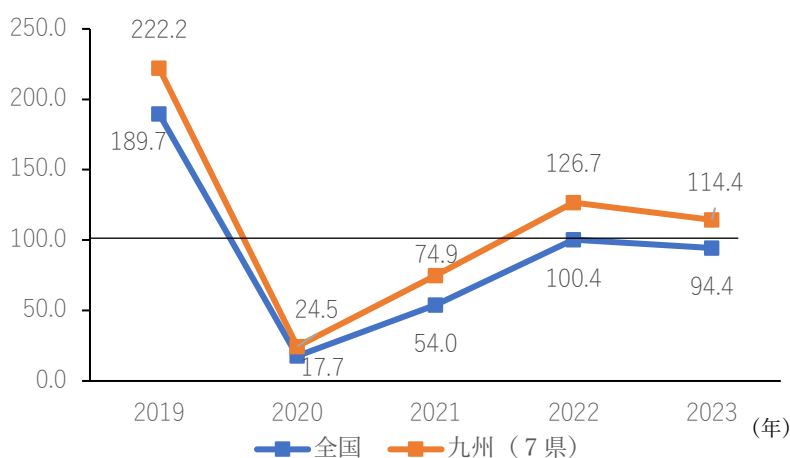
#### 4. GWのおでかけ指数：飛び石・天候要因で前年を下回る

GWにおけるおでかけ指数（各年4/27～5/7の土日祝日<sup>3</sup>来訪地側・原数値の期間平均値）をみると、2023年の全国は94.4、九州（7県）114.4となり、いずれも前年から低下した（図7）。2019年比を算出すると、九州は全国を上回っており、観光来訪状況のコロナ禍からの回復が相対的に進んでいる地域であるといえる。

全国におけるGW期間の日別来訪者数を年次で比較すると、2023年については、5連休の前半にあたる5/3～5/5については、前年を上回る指数となった（図8）。一方、飛び石となった4/29～4/30や、5/6～5/7については、全国的に雨模様であったこともあり、日帰り旅行を中心に観光人流が伸び悩んだと推測される。

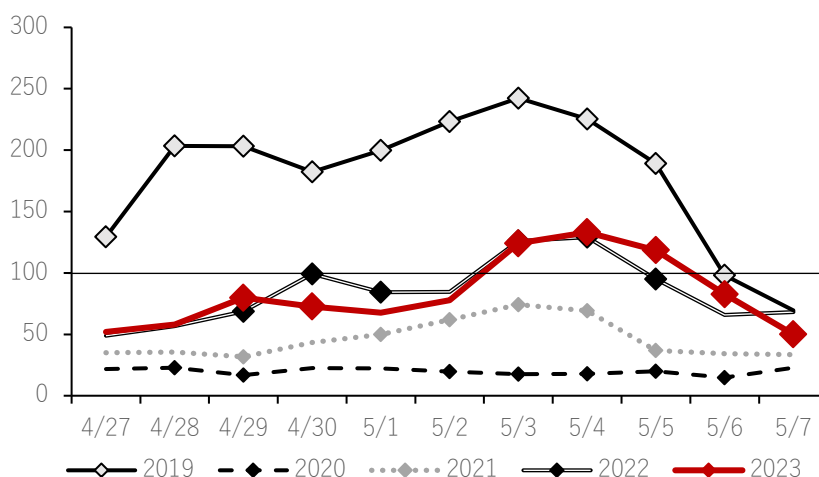
なお、本指数が事前にモニタリングスポットとして指定された観光地への来訪を集計対象としていること、また訪日外国人の流動を対象に含んでいないことに留意が必要である。

図7 全国・九州（7県）のGW期間おでかけ指数



注) 4/27～5/7の土日祝日における来訪地側・原数値の期間平均値  
2023年5月7日までのデータによる推計値  
資料) 九経調 DATASALAD

図8 GW期間の日次おでかけ指数（全国、年次別）



注) 来訪地側・原数値、2023年5月7日までのデータによる推計値  
マーカー付きは各年の土日祝日  
資料) 九経調 DATASALAD

<sup>3</sup> 対象日は、2023年は4/29・30、5/3～7、2022年は4/29～5/1、5/3～5、2019年は4/27～5/6となる



九州・沖縄・山口の県内市区町村おでかけ指数をみると、1位は前年に続き波佐見町（長崎県）となった。波佐見町では期間内に「波佐見陶器まつり 2023」が開催されており、同じく陶器市・陶器祭が開催された有田町（佐賀県）は3位、東峰村（福岡県）は8位にランクインしており、いずれもGW期間のイベントとして根強く定着している。

前年比・2019年比をみると、1位はいずれも奄美大島に位置する大和村（鹿児島県）であった。このほか、2019年比の2位に伊仙町（鹿児島県、徳之島）、3位に与那国町（沖縄県）、6位に対馬市、7位に姫島村（大分県）、前年比の3位に知名町（鹿児島県、沖永良部島）がランクインするなど、アウトドア人気の継続とコロナ禍の収束による遠出機運の上昇から、離島の市町村が上位を占めた。

表5 九州・沖縄・山口の市区町村別GW期間おでかけ指数

①おでかけ指数

順位	市区町村	指標値	前年順位
1	長崎県波佐見町	848.9	1
2	鹿児島県伊仙町	725.7	3
3	佐賀県有田町	605.7	2
4	沖縄県与那国町	442.4	8
5	沖縄県伊江村	364.8	42
6	熊本県相良村	337.9	12
7	鹿児島県東串良町	337.0	52
8	福岡県東峰村	332.1	4
9	宮崎県串間市	299.7	5
10	山口県阿武町	295.0	11
11	宮崎県日之影町	277.6	6
12	大分県姫島村	262.7	27
13	熊本県水俣市	249.5	10
14	宮崎県木城町	232.1	18
15	鹿児島県錦江町	230.2	32
16	熊本県小国町	230.2	15
17	熊本県阿蘇市	223.1	23
18	沖縄県国頭村	222.4	47
19	鹿児島県大和村	221.9	300
20	宮崎県門川町	221.7	66

②前年比

順位	市区町村	前年同期比
1	鹿児島県大和村	+368.1%
2	熊本県益城町	+101.7%
3	鹿児島県知名町	+84.9%
4	熊本県嘉島町	+67.0%
5	熊本県南関町	+61.8%
6	鹿児島県肝付町	+59.1%
7	鹿児島県西之表市	+58.2%
8	沖縄県伊江村	+55.9%
9	福岡県吉富町	+53.8%
10	鹿児島県龍郷町	+53.2%

③2019年比

順位	市区町村	2019年比
1	鹿児島県大和村	+303.5%
2	鹿児島県伊仙町	+172.3%
3	沖縄県与那国町	+168.3%
4	熊本県相良村	+24.7%
5	山口県和木町	+19.4%
6	長崎県対馬市	+7.6%
7	大分県姫島村	+5.0%
8	鹿児島県知名町	+4.2%
9	宮崎県西米良村	▲ 1.5%
10	宮崎県日之影町	▲ 1.8%

表 6 全国・地域ブロック・都道府県別 2023 年 GW 期間おでかけ指数

地域	おでかけ指数	2019年比		地域	おでかけ指数	2019年比	
		前年比	2019年比			前年比	2019年比
全国	94.4	▲ 5.9%	▲ 50.2%	福井県	152.0	▲ 9.2%	▲ 45.3%
北海道	132.3	▲ 10.4%	▲ 48.3%	山梨県	132.7	▲ 13.7%	▲ 50.9%
東北	146.1	▲ 0.7%	▲ 45.0%	長野県	147.0	▲ 15.0%	▲ 48.3%
北関東	130.2	▲ 7.5%	▲ 49.3%	岐阜県	140.2	▲ 7.4%	▲ 44.9%
南関東	61.3	+0.7%	▲ 52.2%	静岡県	104.8	▲ 8.5%	▲ 53.1%
甲信越	145.6	▲ 10.5%	▲ 46.6%	愛知県	83.1	▲ 3.0%	▲ 48.4%
東海	98.5	▲ 6.5%	▲ 50.6%	三重県	101.6	▲ 10.2%	▲ 55.7%
北陸	144.2	▲ 8.4%	▲ 46.8%	滋賀県	114.3	▲ 9.5%	▲ 50.8%
近畿	84.5	▲ 8.8%	▲ 53.8%	京都府	92.8	▲ 17.5%	▲ 54.7%
中国	130.7	▲ 8.8%	▲ 49.3%	大阪府	65.5	+0.2%	▲ 54.0%
四国	147.8	▲ 7.7%	▲ 48.5%	兵庫県	90.7	▲ 9.9%	▲ 54.6%
九州	114.4	▲ 9.7%	▲ 48.5%	奈良県	117.4	▲ 13.4%	▲ 51.1%
沖縄	87.4	+1.9%	▲ 49.1%	和歌山県	125.3	▲ 12.5%	▲ 52.4%
北海道	132.3	▲ 10.4%	▲ 48.3%	鳥取県	162.0	▲ 11.7%	▲ 52.7%
青森県	164.4	▲ 2.6%	▲ 47.7%	島根県	156.5	▲ 9.7%	▲ 48.4%
岩手県	165.0	+1.6%	▲ 38.3%	岡山県	116.5	▲ 6.0%	▲ 48.9%
宮城県	115.9	▲ 0.0%	▲ 47.4%	広島県	121.8	▲ 6.6%	▲ 48.6%
秋田県	167.1	▲ 5.7%	▲ 47.4%	山口県	140.7	▲ 14.0%	▲ 49.6%
山形県	159.6	▲ 2.7%	▲ 45.0%	徳島県	138.4	▲ 7.3%	▲ 53.1%
福島県	141.9	+2.9%	▲ 43.4%	香川県	129.1	▲ 11.0%	▲ 52.5%
茨城県	123.0	▲ 5.8%	▲ 45.9%	愛媛県	151.1	▲ 5.2%	▲ 46.6%
栃木県	140.9	▲ 8.6%	▲ 52.7%	高知県	173.7	▲ 8.0%	▲ 43.2%
群馬県	129.3	▲ 8.5%	▲ 49.6%	福岡県	92.5	▲ 5.7%	▲ 48.6%
埼玉県	87.6	▲ 1.0%	▲ 52.7%	佐賀県	126.1	▲ 13.6%	▲ 49.7%
千葉県	89.1	▲ 6.6%	▲ 54.1%	長崎県	135.3	▲ 15.4%	▲ 50.2%
東京都	50.2	+3.7%	▲ 52.1%	熊本県	137.5	▲ 12.6%	▲ 44.9%
神奈川県	78.0	▲ 0.6%	▲ 50.8%	大分県	141.5	▲ 12.9%	▲ 50.4%
新潟県	151.7	▲ 3.3%	▲ 41.9%	宮崎県	141.5	▲ 10.5%	▲ 47.4%
富山県	167.8	▲ 7.1%	▲ 44.7%	鹿児島県	120.7	▲ 5.3%	▲ 49.4%
石川県	126.9	▲ 8.8%	▲ 49.2%	沖縄県	87.4	+1.9%	▲ 49.1%

注) 来訪地側・原数値、2023年5月7日までのデータによる推計値

マーカー付きは各年の土日祝日

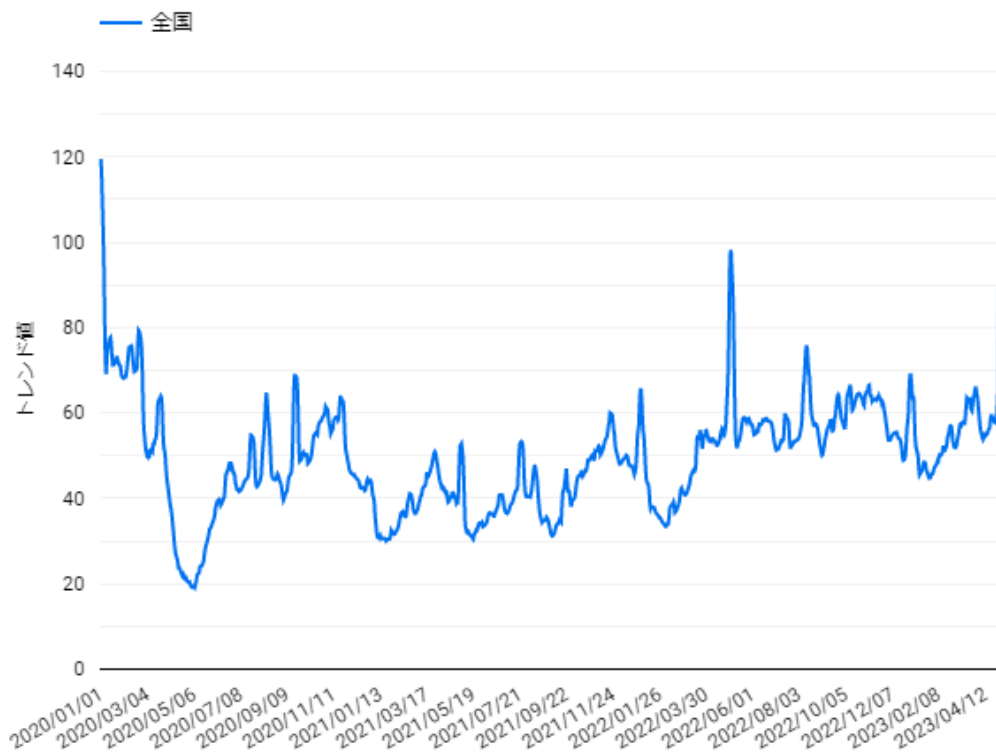
資料) 九経調 DATASALAD



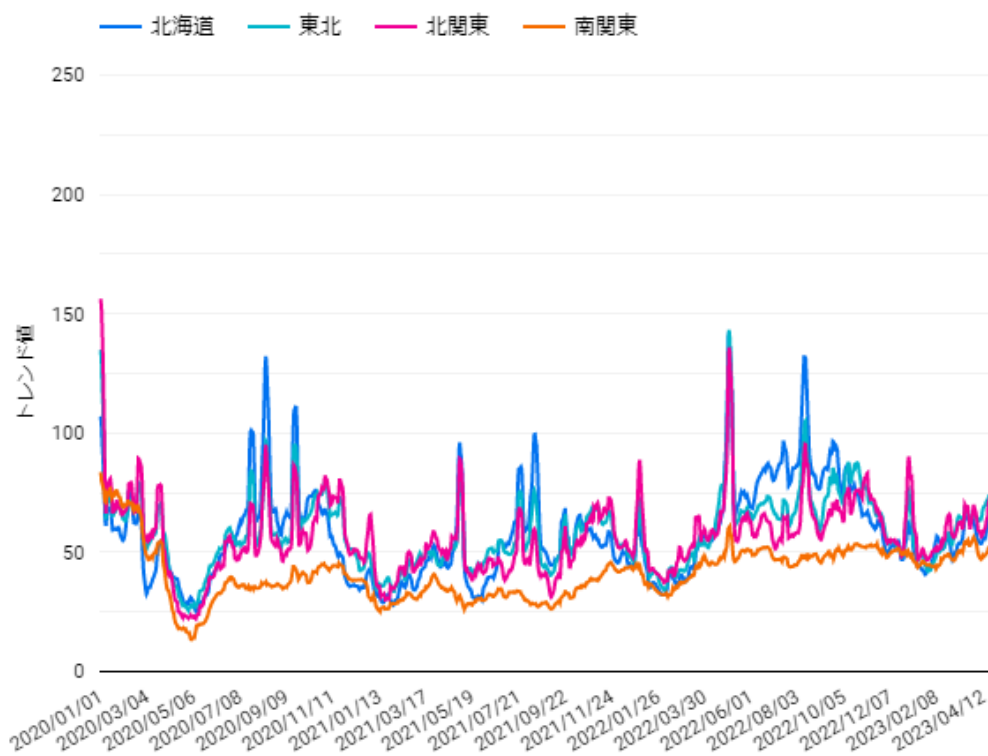
## 5. 日次推移

図9 地域ブロック別の日次推移（トレンド値）

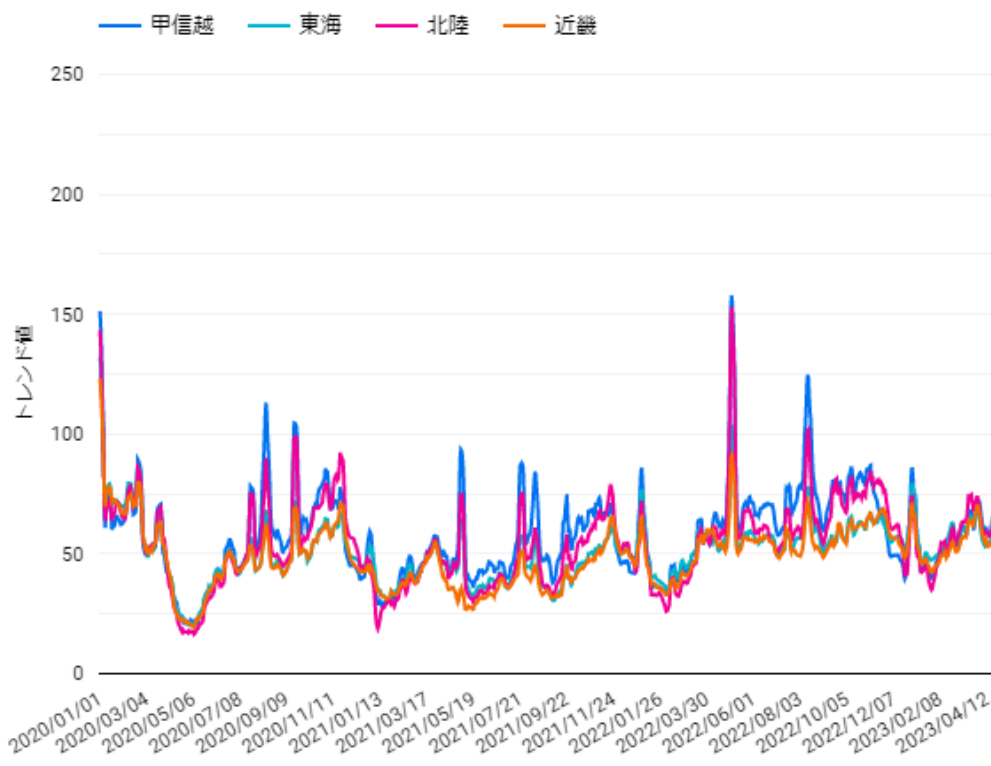
&lt;全国&gt;



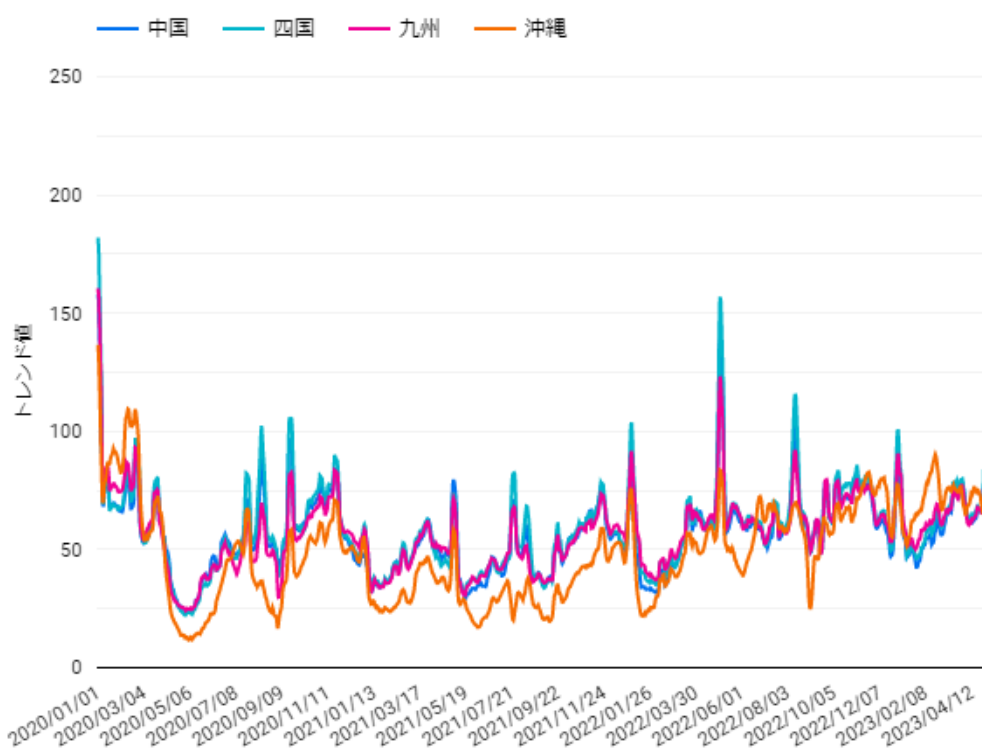
&lt;北海道～南関東&gt;



## &lt; 甲信越～近畿 &gt;



## &lt; 中国～沖縄 &gt;



注) 2023年5月7日までのデータによる推計値 資料) 九経調 DATASALAD

渡辺 隼矢 (事業開発部 研究主査)

E-mail: jwatanabe@kerc.or.jp

## 参考：おでかけ指数の定義・算出方法

おでかけ指数は、市区町村別の人流をコロナ禍前の 2019 年を基準に指数化したものである。これを、来訪地側（着地側。ある市区町村への来訪者数）と、発地側（ある市区町村（居住地域とみなされる市区町村）からの出発者数）の双方について算出している。具体的には、以下のようなルールである（試作版のため、今後変更の可能性がある）。

### ①対象期間、公表時期

来訪地側・発地側とも 2019 年 1 月以降である。おでかけウォッチャー（以下、OW）と同じく、毎週月～日曜日のデータを翌木曜日に公表する。

### ②モニタリングスポット、市区町村ごとのユニーク化

OW では、各市区町村につき最大 20 地点をモニタリングスポットとして設定し、それらの地点のいずれかを訪れた人数を市区町村別来訪者数として算出している（複数地点を訪れた場合も 1 人とカウント）。来訪地側（着地側）のおでかけ指数で用いるのは、この市区町村別来訪者数である。また発地側は同じデータを発地側で集計した人数を基としている。

OW では各市区町村（基礎自治体）がモニタリングスポットを任意の地点に変更できるサービスとしているが、おでかけ指数ではデータの連続性を保つ観点から、OW のリリース時点（2021 年 10 月）に九経調がデフォルトとして設定したスポット（※）を対象としている。

※各市区町村において来訪者数（2019 年のゴールデンウィークにおける 250m メッシュ別の来訪者数）が上位 20 のメッシュを選定した。ただし、選定の際には、より上位のメッシュと隣接（メッシュ中心間の距離が 500m 以内）するメッシュは除外した。

### ③人流計測の条件

すべての人流が来訪および出発としてカウントされるのではなく、居住地域とみなされる場所から 20km 以上離れた場所で位置情報が一定時間検出された場合、かつそれが通勤・通学のような日常的な訪問地ではない場合という条件がある。

### ④指数算出地域

②の通り市区町村別にユニーク化した人数を基礎に指数を算出しているため、厳密には市区町村別の指数を参照いただきたい。ただ、より上位スケールの地域間比較等のニーズもあるため、市区町村別の人数を足し上げて都道府県や地域ブロック別の人数を算出し、それをもとにこれらの地域別の指数も公表している。

### ⑤算出方法

各地域（市区町村や都道府県等）について、2019 年の 1 日当たり平均人数を 100 として、各日の人数を指数化したものを原数値とする。そのうえで、人流には曜日による変動が大きい特徴があり、原数値のままではトレンドをとらえにくいことから、原数値を 7 日間周期のデータとみなし、トレンド成分（中長期的変動）、曜日成分（曜日による変動）、イベント成分（天候やイベント（催事）等による短期的変動。他の 2 つの残差）の 3 つに要因分解を行うことで、トレンド値および曜日調整値を得る。各数値の計算方法・等式は以下の通りである。

原数値 = (各日人数 ÷ 2019 年の 1 日当たり平均人数) × 100 日次（原数値）

トレンド値 = トレンド成分 = 原数値 - 曜日成分 - イベント成分

曜日調整値 = 原数値 - 曜日成分

### ⑥一部地域の算出除外

位置情報ビッグデータは個人特定がなされないように抽象化処理がなされたものであり、その過程で閾値未満の人流は秘匿されるため、来訪者数・出発者数のカウントから除外される。したがって、来訪者数・出発者数が毎日計測されていない一部地域（離島等）が存在する。このような地域について⑤のような手法による指数化は、ブレが大きくなるなど必ずしも適切でないため、2019 年において来訪者数・出発者数が計測される日が 180 日未満の自治体については指数を算出しない。